



# 総合型地域スポーツクラブ 公式メールマガジン

このメールマガジンはスポーツ振興くじ(toto)助成金を受けて配信しています。  
スポーツ振興くじ(toto)については以下から

[日本スポーツ振興センターHP] <http://www.jpnsport.go.jp/>



スポーツ振興くじ助成事業

## 特集 学校運動部活動と連携するクラブ



- ▶▶▶ 謹教スポーツクラブ
- ▶▶▶ NPO法人 楽スポあすか



## 特別企画 地域スポーツクラブと障がい者スポーツ団体の連携



- ▶▶▶ 知的障がい者の受入に向けた基礎的情報

## 連載 みんなで盛り上げよう！ オリンピック・ムーブメント



- ▶▶▶ NPO法人 福光スポーツクラブ
- ▶▶▶ SCおおいたネットワーク



- ▶▶▶ 助成金情報 ▶▶▶ 詳細



- ▶▶▶ お知らせ ▶▶▶ 詳細



- ▶▶▶ バックナンバー ▶▶▶ 詳細



公益財団法人  
日本体育協会



# 特集

## 学校運動部活動と連携するクラブ



### 謹教スポーツクラブ ＜福島県会津若松市＞



中学校運動部活動をめぐっては、少子化による生徒数減少、それに伴う教員数の減少、専門的指導力をもつ教員の不足等により、生徒のニーズに応じた部活動が成り立たなくなる現状があります。

このような中、外部指導者の活用も議論されるようになり、中学校運動部活動と総合型地域スポーツクラブの連携が期待されています。

そこで今回は、学校運動部活動と連携するクラブの取り組みを紹介します。



1. 雪国ゆえの悩みから中学サッカー部との連携が始まる 体育館でサッカー
2. 部活数の減少を検討するほどの中学校に救いとなったバレーボール教室
3. 教室は夕方以降に小学生と中学生二つに分けて実施 先生方の協力が不可欠

## 1 クラブ概要

クラブ設立前には、会津若松市の市立謹教小学校学区において地区体育連盟として、各競技（主にソフトボール、8人制家庭バレーボールなど）の練習・大会参加、地区町民の運動会を運営し、平成13年に市役所スポーツ振興室で複数の総合型地域スポーツクラブを設立したいとの案が持ち上がり、謹教体育連盟にも打診がありました。執行部役員が、市の担当者と打ち合わせや検討を重ねた結果、スポーツ振興くじ(toto)助成を受け平成16年の総会の承認を機に総合型スポーツクラブ「謹教スポーツクラブ」として新たに誕生しました。「健康づくり、仲間づくり、思い出づくり」を理念に、子供から大人まで、老若男女誰でも参加できる開かれたクラブを目指しています。



総合型地域スポーツクラブは自分達だけではなく地域も一体となって取り組むことになるため、市、県の担当者の方々と教室開催の計画や運営の方法、予算も含め試行錯誤しながらのスタートでした。当初は役員がクラブマネージャー養成セミナーを受講し、totoの創設支援を受けながら準備を進め、市体育指導員によるバレーボール教室、ストレッチ講習会、スキー教室、ゴルフ教室など参加者の状況、反響を確認しながらの開催でした。設立当初から実施している謹教スポーツクラブ会長杯ソフトボール大会は、今年度で第14回目を迎えます。

## 2 震災、toto支援が転機→中学部活動と関わり

クラブに大きな転機が訪れたのは7年前、東日本大震災が発生し、被災地クラブの活動基盤強化のためtotoの支援が確定したことです。ほとんどが素人のメンバーのため支援を受けるための準備はとても大変なことでした。しかし、元々、ボランティア精神旺盛なメンバーです。この事業が形になり、少しでも市民の皆さんの健康づくりに役立ち、少しでも医療費削減に貢献できればという信念で走ってきたような気がします。専門のクラブマネージャーを雇用し、各種教室、イベントの計画、指導者とのアポイントなどを進めている時、中学校の部活動とクラブの関わりが生まれました。

それまでのクラブ会員は、大人のほかにスポーツ少年団の小学生がメインで、中学生との交流はほとんどありませんでした。しかし、バレーボール教室の開催が契機となり中学生がクラブ員として活動するようになりました。

## 3 取り組み内容

### ●冬場のみ中学サッカー一部に体育館を提供

私たち謹教スポーツクラブのクラブハウスは、市から管理委託を受けた旧高校体育館の一室にあり、他の競技の事務所とシェアしながら事務処理を行っています。

中学部活動との連携の一つ目は、サッカーです。中学校のサッカー一部は通常、グラウンドで練習を行いますが、雪国会津は12月から3月までは外での練習がほとんどできません。中学部活動も競技数が多く、一つの部活が体育館を使える日にちは1週間のうち1日程度で、どの部活も体育館の使用は悩みの種でした。サッカー一部のある保護者が、謹教スポーツクラブが体育館を管理していることを知り、「場所がなくて練習できないので使えるようになりませんか」と相談を持ちかけたのが契機となり体育館を提供することになりました。保護者会の会長さんが連絡担当となり、学区の中学サッカー一部が冬の間、体育館で練習しています。



サッカー指導はクラブの外部コーチにお願いしています。体育館を使える時間が限られているため、顧問の先生と外部コーチが話し合って練習内容を決めています。冬の間の体力づくりは大切ですが、ボールに触れ、追いかけて、ゴールを決めることができるのは生徒たちにとっても、良いことだと思っています。他の体育館までの移動、体育館の使用料も含め、親にかかる負担も少しは軽減されているはずです。

## ●活動停止を食い止めたバレーボール教室

### ● 会津バレーボール協会の熱望で実現

もう一つはバレーボールです。会津バレーボール協会会長を務めるとある高校のバレーボール部顧問の先生から、「バレーボール人口の減少をなんとか食い止めたい」「中学校3年間バレーボールをやってきた生徒たちが受験まで気分転換できる場所を与えてあげたい」との希望が届き、これに応える形で、バレーボール教室を開催することになりました。もちろん、中学3年だけではなく、小中学生なら誰でも参加でき、「未経験大歓迎」でスタートしました。

地域の中学校も他の地区同様、子供が減り続け、昔7クラスが普通だった一学年が今は4クラスに減っています。何年か後には新入学の生徒が100人を切ることとなります。こうした状況から部活数、先生の数、生徒の数それぞれのバランスが崩れ、部活を減らす検討が中学校では始まっていました。バレーボール部も例外ではなく、まして団体競技では最低の人数の確保も必要になり、活動停止のリストに入っていました。

### ● 学校にチラシ持参し参加者募集

市内一円の中学校、そして、小学生にもバレーボールを経験し好きになってもらえるよう、各小中学校にチラシを持っていき、教頭先生や教務主任の先生に参加者の募集をお願いしました。初めはなかなか集まらず苦戦しましたが、評判を聞いたり、参加した子に誘われたりと徐々に人数が増え、会場を分けて小学校、中学校それぞれ別に教室を開催することになりました。違う学校から集まった子どもたちも、やがて仲間になり、挨拶もでき、何よりバレーを好きになってくれました。

### ● 先生方の協力得て運営

活動時間は夜7時からで、年20回(各年度で多少回数には誤差があります)開催しています。バレーボール教室では、高校の部活動を指導されている先生や、社会人で現役の方から指導を受けることができるため、専門の技術を学べる大変貴重な教室になり、参加者の競技レベルも高まっています。

また、教室を開催している会場の中学校のバレーボール部顧問の先生にも教室に参加して指導してもらい、最終の鍵確認などでも協力してもらっています。2年ほど前からは、転勤で着任された中学のバレーボール部顧問にも協力いただいています。



- **参加小学生が中学でも入部**

始めて3年目に小学校の部に参加していた子どもたちが中学生になり、バレーボール部に入部しました。その入学前、中学校ではバレーボール部が活動停止の予定でしたが、入部希望者がいる状況での停止はできず、活動は続けました。今年度の練習予定は終了し、先の反省会ではバレーボール協会の方々が来年度も継続したいとの意向を示され、私たちも活動継続を決定しました。

## 4 運営スタッフが不足 人材確保が最大の課題

現状で、子どもが何人集まるか予想もできませんが、特に小学生はサッカーやバスケのスポーツ少年団に所属していても、バレーボールもやってみたいという子供もいるかもしれません。どのスポーツが自分に合っているか分からない中で、いろんな競技を経験させてあげたいと思います。そして、その環境が整っていることをうまく活用し、子どもたちに役立つ活動に発展させたいと思っています。

本来の部活とは違う時間帯での活動のため、体育館の管理、鍵の施錠、参加者の安全など、運営する側でも人材の確保が必要になっています。toto助成を受け、クラブマネジャーを雇用し、各教室の運営管理、予算管理もマネジャーの仕事でした。支援が終わった今年度は、マネジャーを雇用する資金源の確保は難しく、謹教スポーツクラブの理事が教室の管理運営を兼務してきました。

小学生、中学生2つに分けた教室は、小学生が木曜日に、中学生が火曜日にそれぞれ多いときは月3回開催するため、クラブの理事の中には働いている人もいることから、スタッフの当番決めもままならないことがありました。人材不足をカバーするために、どのようにクラブを運営していくかが大きな課題となっています。

一方で、部活動との連携がきっかけとなり、教室に参加する小学生・中学生の保護者に運営スタッフとしてクラブの活動に携わってもらえるようになったり、学校の教員との連携もできるようになってきています。今後、このつながりをいかに広げていけるかが重要であると考えています。

(謹教スポーツクラブ 副会長 坂内 喜恵)



## クラブプロフィール

**設立年月日** 平成16年4月24日

**所在地** 福島県会津若松市

**特徴**

謹教スポーツクラブは、過去、会津若松市の各地区にあった体育連盟で活動しておりました。総合型地域スポーツクラブとして活動を始め、手探りではありますが基本は「老若男女問わず、誰でも体力づくり、仲間づくり、思い出づくり」をベースとして、少しでも多くの方に参加していただき、参加するのが楽しみだと思ってもらえるようにと考えています。近年都会ではお隣同士の付き合いもままならない状況だったりしますが、我が会津若松も例外ではなく近所のつながりを大切にしていきたいと思って活動しています。

例としては地域の小学校との合同の運動会は18回目を迎えました。

子供が減少している中で、地域と、親と、子供とみんなで集まり競技を行うことでの一体感は、回を増す毎に拡大しています。

**連絡先**

〒965-0873 福島県会津若松市追手町2-41 旧学鳳高校体育館

電話番号 070-6950-9147

E-Mail [kinkyousc@gmail.com](mailto:kinkyousc@gmail.com)



サッカー部の体育館での練習の様子



小学生バレーボール教室の様子



冬の中学校のグラウンド



# 特集

## 学校運動部活動と連携するクラブ



### NPO法人楽スポあすか ＜奈良県高市郡明日香村＞



中学校運動部活動をめぐっては、少子化による生徒数減少、それに伴う教員数の減少、専門的指導力をもつ教員の不足等により、生徒のニーズに応じた部活動が成り立たなくなる現状があります。

このような中、外部指導者の活用も議論されるようになり、中学校運動部活動と総合型地域スポーツクラブの連携が期待されています。

そこで今回は、学校運動部活動と連携するクラブの取り組みを紹介します。



#### ここがポイント!

1. 教育文化課、教育委員会が「みなし部活動」を考案  
→「楽スポあすか聖徳中学校卓球部」が始動
2. 外部指導者を派遣→専門的指導者の派遣により指導力不足を補う
3. 校長ら中学校側の理解を得て連携  
→総合型クラブの活動が中学校部活動へと継続する環境が整う

## 1 中学校運動部活動との連携概要

### 〈経緯〉

- 生徒数が少ないため、部活動数が少ない上、専門的知識・技能を有する先生がいない
- 部活動に対する保護者の要望が強い  
(卓球クラブの子どもが中学に進学しても卓球部がなく、子ども・保護者が部創設を要望)
- 社会的要因→少子化

### 〈目的〉

- ① 専門的知識・技能を有する外部指導者を派遣することによる部活動の充実・活性化
- ② 地域連携による学校教育活動・社会体育活動の充実
- ③ 先生方の負担軽減を図る



## 〈それまでの具体的取り組み〉

既存クラブ活動への外部指導者の派遣

## 2 取り組み内容

### ●部創設が困難な状況を踏まえ、クラブ側から卓球部創設を要望

子どもたちや保護者からの要望があっても、生徒数が少なくなっている状況では「教諭が少ない・部活を増やせない・子どもが分散される」といった現実には直面してしまいました。

そこで、明日香村教育文化課および教育委員会において、生徒数の減少などにより「子どもや保護者からの要望に応じた運動部の創設が困難で、既存の部活動であっても存続が危うい」などの課題をどうクリアすべきか、検討を重ね、平成28年度より「みなし部活動外部指導者派遣事業」が実施されることになりました。

同事業は「みなし部活動」という言葉通り、教員の不足から正式な部活動としては活動できない問題を解決するために考えられました。

このように、外部指導者を派遣することによって「部活の活性化・地域連携と開かれた学校・生徒のニーズに即した活動」につながると考えます。

### 「みなし部活動外部指導者派遣事業」での実施条件

- 種目は中学校体育連盟登録の競技種目であること
- 外部指導者は、生徒指導もできる人材(教員免許保持者が望ましい)
- 外部指導者の専門指導歴は3年以上
- 3名以上の部員
- 週2日(年間104回)以上の活動
- 1年以上継続して活動できるクラブ
- 学校の保険は適用外のためクラブのスポーツ安全保険に加入

以前からクラブの1活動団体である「卓球クラブ」から聖徳中学校に卓球部を創設してほしいという要望がありました。そこでクラブが、上記の条件が揃ったので「みなし部活動外部指導者派遣事業」として「卓球部」を申請しようという動きになりました。



### ●学校側の理解は不可欠

申請から認可されるまでは、比較的スムーズにいきました。中学校校長先生・教頭先生・教育文化課担当者・クラブ担当者が話し合いをし、卓球部の活動場所の確保などを協議するとともに、校長先生には中学校の中で先生方に理解を深めていただくよう働き掛けをお願いしました。

その甲斐があって一定の理解を得、平成29年5月、みなし部活動「楽スポあすか聖徳中学校卓球部」としてスタートしました。現在、中学生の部員数は6名で、うち楽スポあすか会員が5名です。

### ●元小学校教諭(現講師)が指導

みなし部活動は、聖徳中学校の部活動の規則に沿って活動します。指導には、「みなし部活動外部指導者派遣事業」の必須条件でもある「技術の指導だけではなく生徒指導ができる指導者」を満たすために元小学校教諭に就いていただいています。予定表の管理や保険加入など活動の全てのサポートはクラブで行っています。

### ●常時学校と連絡 大会時は外部指導者と学校職員が引率

クラブ担当者が学校の行事や校時などを学校と常に連絡を取り合って活動をサポートしているのですが、細かいところまで把握仕切れず困ることもあります。

楽スポあすか聖徳中学校卓球部の目標の一つに技量向上と公式戦での勝利が掲げられており、「楽な部活動」という認識にならないよう部員たちは目標をもって頑張っています。

大会時には外部指導者だけでなく学校側から必ず学校職員も引率してくださっています。

大会時の学校とクラブの役割分担は今のところまだ手探りの状態ですが、日々のクラブ活動で外部指導者が生徒指導も含めて指導しています。

## 3 クラブ児童だけでなく未経験者も参加 中学でのクラブ認知度高まる

みなし部活動卓球部が始動したことにより、クラブで卓球を頑張っている小学生が中学生になっても部活動として卓球を継続する環境が整ったことや、今まで卓球をしていなかった児童も中学校に入学してから始めることができる選択肢が増えたこと、そして何よりクラブの活動や取り組みを中学校の先生方に知ってもらうことができたことは、大変よかったと思います。また、家族の方が会員になられて子どもと一緒に卓球を始めるといった効果も生まれています。



## 4 地域への認知促進が課題 他部活との連携も目標

昨年5月からスタートしたばかりですので、卓球部の活動は、まだまだ広く知られていません。今後は、もっと地域の人にこの活動を知っていただいて、部員の頑張りを認めてもらい、みなし部活動として長く継続していきたいです。一方、中学校側で顧問とまではいなくても部員と直接連絡を取るなどの役割を担う先生を配置していただけたら、もっと活動がスムーズにいくと思います。(現在は校長先生が担ってくださっています)

今後は、他の運動部、さらに文化部も含めてクラブと学校が連携して子どもたちをサポートするシステムを構築していきたいです。

(NPO法人楽スポあすか クラブマネジャー 檜垣 美穂)

## 5 取材した県担当者の感想 「地域の宝を地域が育てる物語を見届け続けたい」

今回、「みなし部活動外部指導者派遣事業」の取材をさせていただきました。部活動の問題は、全国での問題にもなっていると聞きますが、地域で考えれば必ず解決していくと思います。明日香村教育委員会の子どもに対する理解ある気持ちが新しい仕組みを導入し、総合型地域スポーツクラブの活動を学校側が理解することで、さらに地域がつながっていく姿は、総合型地域スポーツクラブが目指す姿だと思います。地域の実情に応じたスポーツ環境を住民と行政が協働して作っていくためにも総合型クラブの必要性を感じました。スポーツは人の心を動かします。そして人の心を一つにまとめてくれます。卓球を練習している子どもたちの姿を見て、地域の宝を地域が育てる物語が、この先どの様に見えるのかを見届けたい気持ちになりました。

(奈良県クラブアドバイザー 川崎 香織)



## クラブプロフィール

**設立年月日** 平成25年3月10日設立(法人格取得平成29年10月31日)

**所在地** 奈良県高市郡明日香村川原91-3

**運営** 会員数627名(平成29年12月現在)

**予算規模** 2,000万円(平成29年度)

**特徴** 「楽しもう！スポーツ！」を合い言葉に、子どもから高齢者までライフスタイルに合わせて楽しめるスポーツクラブです。スポーツや文化活動を通じて、行政や学校、関係機関との連携を密に、子どもの体力向上や青少年の健全育成、高齢者の生きがいづくり、多世代間交流など、元気な村づくりを目指しています。

**連絡先** 〒634-0141 奈良県高市郡明日香村川原91-3

電話番号 0744-54-2810

URL <http://tanospo.club/>



部活動の様子



外部指導者の松本さんと楽スポあすか聖徳中学校卓球部の部員

## 特別企画

### 知的障がい者の受入に向けた基礎的情報

障がいのある方を総合型クラブで受け入れることは、地域課題の解決にもつながり、社会的に認められる総合型クラブへつながっていくものと考えられます。本年度のブロック別クラブネットワークアクション2017※では総合型クラブによる障がい者の受け入れに向けた取り組みを促進することを目的に、共通プログラム「地域スポーツクラブと障がい者スポーツ団体の連携」を行いました。

そこで、今回は共通プログラムで情報提供を行った「知的に障がいのある方がクラブ活動に参加する際の準備事項や指導上の留意点」等について鳥取県障がい者スポーツ協会の山下忍氏に執筆いただきました。



#### 1 知的障がいとは

「知的機能の障害が発達期(おおむね18歳まで)にあらわれ、日常生活に支障が生じているため、何らかの特別の援助を必要とする状態にあるもの」(厚生労働省実施の知的障害児(者)基礎調査における定義)※「知的障害者」の定義規則はありません。

知的障がいは「知的機能(IQ)」の数値のみによって診断が下されるのではなく「適応機能」等日常生活能力や、社会生活能力、社会的適応性などの能力を測る指数も併せて診断が下されます。

知的障がいの診断は医療機関や地域によって異なりますが、一般的に「知的機能」と「適応機能」の評価で「軽度」「中度」「重度」「最重度」の4つの等級に分類されます。



- **軽度知的障がい**

おおむねIQが50～70の知的障がいを指します。食事や衣服脱着、排せつなどの日常生活スキルには支障がありません。しかし、言語の発達がゆっくりで、18歳以上でも小学生レベルの学力にとどまることが多いです。

- **中度知的障がい**

おおむねIQが35～50の知的障がいを指します。言語発達や運動能力の遅れがあります。身辺自立は部分的にはできますが、全てをこなすことは困難です。

- **重度知的障がい**

おおむねIQが20～35の知的障がいを指します。言語、運動機能の発達が遅く、学習面ではひらがなの読み書き程度にとどまります。情緒の発達が未熟で、身の回りのことを一人で行うことは難しいので、衣食住には保護や介助が必要になる場合があります。

- **最重度知的障がい**

おおむねIQが20以下の知的障がいを指します。言葉が発達することはなく、叫び声を出す程度にとどまることがほとんどです。身の回りの処理は全くできず、親を区別して認識することが難しい場合もあります。しかし、適切な訓練によって、簡単な単語を言えるようになるケースもあります。

## 2 プログラム参加にあたって必要な情報とは？

障がい者を受け入れるにあたって事前に知っておくべき基本的な情報が何点かあります。まず、他の障がいと知的障がい重複している場合が少なくありません。また、情緒が不安定だったり、認知能力や集中力の劣弱が目立つこともあります。このような場合、指導場面を人的、物的に整備するとともに、知的障がいや身体障がいよりも情緒的問題行動などを十分視野に入れた指導が効果的であり、保護者の協力も欠かせません。

中国ブロッククラブネットワークアクションの共通プログラムのワークでは、「発語はどうか」、「合併症や重複障がいはあるか」、「運動制限はあるか」、「介助が必要かどうか」、「生活自立はどうか」、「興味のあるものはなにか」、「感覚過敏はあるか」、「てんかんはあるか」、「理解度はどうか」、「コミュニケーションはどうか」、「スポーツ歴はあるか」などが必要な情報ではないかとの意見があげられました。これらの他にも、こだわりや配慮が必要なことはないか、発作の起きる要因や嫌いなもの、怖いもの、同性・異性、禁忌事項など、気になったことや「これは？」と思ったことは必要な情報に入れたほうがよいでしょう。



### 3 どこに、どのような情報を聞き、相談するのがいいか？

#### 【情報収集先について】

- 本人、親、家族
- 専門学校、短大、大学等の保育、特別支援教育に関する学部の関係者(各学校で障害児運動サークルを開催している場合が多い)
- 市町村の障がい者支援課所属のケースワーカー等(健康の維持・増進や余暇活動支援という点で協力を得られることがある)
- 施設職員(入所・通所施設、就労生活支援センター、スポーツセンター等)
- 医師、理学療法士

参考までに、中国ブロッククラブネットワークアクションのグループワークで出た意見をご紹介します。本人、親、家族など身近な方々から話を聞き、それぞれ専門的な情報は体育協会、障がい者スポーツ協会、障がい者スポーツ指導員、障がい者団体、医師、理学療法士などに相談し、教室を運営するスタッフ間などで共有することが大切という話になりました。

#### 【指導者の確保について】

各都道府県の障がい者スポーツ指導者協議会、競技団体、障がい者スポーツ協会等

#### 【用具、会場について】

各都道府県の体育協会、障がい者スポーツ協会、障がい者スポーツ指導者協議会、スポーツセンター等

### 4 プログラムに参加する際の事前準備や指導上の配慮・留意点

#### ● 小集団による指導を中心に

一般的に、スポーツの場では、知的障がい者を単なる一つの集団として扱うことが少なくありません。この知的障がい者の集団には精神遅滞の程度の差や自閉症のような社会的行動に障がいが顕著な者など様々な特性がある者が含まれることが多くあります。そこで、小集団による指導を中心にしながら、集団の中で得る様々な経験を習得させることが、スポーツ指導の重要な要素であることを理解していなければなりません。



- **ゲーム感覚で楽しめる内容がベター**

障がいのない子ども達と同じように、幼児期には競技に特化せずゲーム感覚で楽しめる内容のものが好ましいのではないのでしょうか。ダンスなどは、一定の振り付けがあるものもありますが、音楽に合わせて自由に身体を動かせるので人気です。また、障がいの程度等によって内容は変わってくると思います。例えば、ダウン症は、心臓疾患、難聴、弱視を併せ持つことが多く、その15%に環軸椎亜脱臼が認められます。したがってこの診断を受けた場合は、首の過度な屈曲は避けなければいけません。また合併症は個人差があるので、保護者等から情報を入れておくことが大切です。

- **危険予測可能な人材の協力が必要**

一般的にスポーツをすることは、危険に立ち向かうことになり、ある程度、事前に危険を予測できます。しかし、理解力の乏しい知的障がい者にとっては、危険を予測することが可能な人たちの協力が必要となります。また、安全上からも、新しい技能への発展には、現在の能力の定着を確認してから、技能をより細分化し、段階的な指導を行うようにしなければなりません。

- **ルールや動きを工夫→「分かりやすさ」「安心感」**

大切なことは、分かりやすさと安心感です。そして何より「楽しい」と思って参加していただくことです。知的障がいといっても、一人一人違った特性を持っているということを理解してください。目標が達成しやすい活動にしていきたいので、ルールや動きを工夫して、スモールステップで取り組むことが大切です。「できた」「楽しい」「うれしい」と感じることができるようしましょう。

具体的なイメージが持ちにくく、視覚的な情報が入りやすいので、文字や絵、写真などを活用したり、実際に手本を見せたり、一緒に実践することが有効です。

- **コミュニケーションは具体的、簡潔に 命令口調はダメ**

変動や変化が苦手なので、変更のある時はできるだけ早く分かりやすく伝えてください。一度に多くのことを言われると整理しにくいので、具体的かつ簡潔に伝えるようコミュニケーション方法を工夫しましょう。

「それ」「あれ」などの代名詞を使わず、「赤いボール」や「黒い服を着た〇〇さん」等のように具体的に伝えるようにしてください。また、肯定的な言い方を心がけてください。例えば「違う」「ダメ」→「〇〇したらもっとよくなるよ」や、命令口調は使わず、「〇〇しなさい」→「〇〇しよう」などです。他にも大声で話さず、相手が分かる言葉に置き換えて話すことも大切です。



## 5

# 障がい者スポーツの普及に向けて、総合型クラブに求められること

障がいのある方がスポーツをする上で、移動手段という課題があります。地域で障がいのある方がスポーツに親しめる環境が整えば、もっとスポーツを気軽に楽しめる方々が増えます。障がい者スポーツという特別なスポーツがあるわけではありません。少しの工夫で障がいがある方もない方も一緒にスポーツを楽しめます。総合型クラブで一緒にスポーツが楽しめるようになると、もっともっと障がいのある方にもスポーツが普及していくと思います。ぜひ、一緒にスポーツを楽しんでください。

(一般社団法人鳥取県障がい者スポーツ協会 山下 忍)

### 参考文献

- ・厚生労働省ホームページ
- ・障害のある人々のスポーツ 総論(藤原進一郎 著)
- ・障害のある人々へのスポーツ支援(特定非営利法人日本障害者スポーツ指導者協議会発行)

### ブロック別クラブネットワークアクションとは...

ブロック内の総合型地域スポーツクラブ関係者(創設準備中団体を含む)が一堂に会し、総合型地域スポーツクラブの運営に必要な情報や課題解決に向けた具体的な取組事例等について情報共有を行い、クラブ育成・支援のためのネットワーク強化と各都道府県総合型クラブ連絡協議会間の連携体制をより一層促進することを目的に、全国9ブロックで開催しています。

平成29年度の各ブロックの開催報告は[こちら](#)から





## 連載

# みんなで盛り上げよう！ オリンピック・ムーブメント

## パラリンピック・ムーブメント事例紹介



### NPO法人 福光スポーツクラブ ＜富山県南砺市＞



オリンピック・ムーブメントとは、オリンピックの精神(オリンピズム)に従って、スポーツを通じて平和でよりよい世界の実現を目指す活動のことです。2020年に向けて国内でもさまざまな活動が行われています。

今回は、NPO法人福光スポーツクラブが実施しているパラリンピック・ムーブメント関連の取り組みを紹介します。

### 2017ふくみつスポーツデー 元気とやまスポレク交流大会 スポレクデーinなんとFUN RUNマラソン

|             |   |
|-------------|---|
| <b>実施日時</b> | 平成29年10月9日(祝・月)   |
| <b>実施会場</b> | 南砺市福光体育館他   |
| <b>参加者数</b> | 766名(全イベント含む)<br>ニュースポーツ体験 471名(ボッチャ体験281名)<br>ペタンク大会 105名<br>スタッフ 140名<br>観衆 50名 |
| <b>主催</b>   | NPO法人福光スポーツクラブ、元気とやまスポレク交流大会・スポレクデーinなんと実行委員会                                     |
| <b>後援</b>   | 福光陸上競技協会、青少年育成南砺市民会議福光支部  |



### 1 障がい者スポーツとの協働を目的にボッチャ体験を企画

以前から障がい者スポーツとの協働を課題として考えており、今回当クラブの年1回の一大イベントである「ふくみつスポーツデー」においてリオデジャネイロ・パラリンピックで話題となったボッチャ競技を取り入れたいとの思いから、このような事業に取り組むことになりました。

なお、「ふくみつスポーツデー」はクラブ設立当初から実施しています。様々なスポーツ体験を通し、福光スポーツクラブ会員はもとより、南砺市住民に対し体力や健康について見直す機会を提供することで、健康づくりや体力の維持・増進を図っています。また、福光スポーツクラブの活動に対する理解を深めていただくとともに、住民相互の親睦と交流の促進に努めています。



「2017ふくみつスポーツデー」会場への入場者を対象に、リオパラリンピックにて銀メダルを獲得した「ボッチャ」競技を体験していただき、障がい者スポーツの普及・啓発を図りました。

ボッチャ体験の実施にあたって必要となる用具は、富山県・富山県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会主催の元気とやまスポレク交流大会の予算から購入しました。

また、ボランティア等のスタッフについては、福光スポーツクラブの理事・スタッフだけでなくサークル団体(会員)に人員派遣を依頼しました。さらに、福光陸上競技協会、青少年育成南砺市民会議福光支部等とも連携して実施しました。

**ふくみつスポーツデー & スポレクデー in なんと 2017**

「スポーツの秋」 無料イベントのお知らせ

10月9日(体育の日) 9時~15時半 南砺市福光体育館 他



**「楽しいブース」がいっぱい**

9:45-14:30  
 キッズ広場  
 バルーンアート  
 ビームライフ  
 ボルダリング  
 トランポリン  
 リングビー  
 スポーツ吹き矢  
 少年団体体験ブース  
 ペタンク  
 フォトラリー  
 三輪車レース

14:45-15:30  
 新体操発表会  
 お楽しみ抽選会

**Fun Run みんなで1.5km 走に挑戦!**

タイムを競わず、楽しく1.5kmを走ります!!  
 ご家族、ご友人と一緒にチャレンジしてみませんか?

対 象 どなたでも  
 時 間 9:15 スタート  
 9:45 終了予定  
 <<申込み不要>>



**トレーニングに挑戦!**

数多くのご要望に応え、今年はトレーニング室を開放します! 初めての方も安心! 専門スタッフが使い方を教えます。

対 象 高校生以上の方  
 時 間 10:00~14:30  
 <<申込み不要>>

主 催 NPO法人福光スポーツクラブ TEL 52-2831  
 共 催 福光陸上競技協会、青少年育成南砺市民会議福光支部  
 後 援 南砺市教育委員会

平成 29 年度富山県スポーツフェスタ  
 元気とやまスポレク交流大会 2017  
 in 砺波地区会場



10月9日(体育の日) 9時~15時半 南砺市福光体育館 他



**「楽しいブース」がいっぱい**

バイキングサスケ(巨大障害物レース)  
 スラックライン、けん玉  
 トランポリン、ボッチャ  
 少年団体体験ブース など

見なきや、損!  
 県内外で活躍されている講師等による  
 デモンストレーションを行います  
 10時、13時の2回講演 各10分程

**疲れたら、いっぶく広場で休憩!**

<<フード>>  
 ・うどん ・おにぎり  
 ・たこやき ・やきそば  
 ・パン ・ラーメン  
 ・カレーライス

<<ドリンク/デザート>>  
 ・アイスクリーム  
 ・クレープ ・ジュース

主 催 富山県・富山県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会  
 主 管 NPO法人福光スポーツクラブ TEL 52-2831



### 3 参加者・運営側の声

#### 参加者の声(実施後)

- パラリンピック種目に気軽に参加できて楽しかった。
- ボッチャを今後もやってみたいと思いました。

#### 運営者の声(実施後)

- 健常者と障がい者が一緒に競技できる「ボッチャ」体験を通じて、障がい者スポーツに関心を持ってくれたので、普及・啓発になりました。

### 4 健常者と障がい者の分けなく広い視野で実施

今回の交流レクリエーションを契機に、さまざまな障がい者スポーツをイベントだけでなく、教室などにも取り入れていくことにつながりました。

障がい者スポーツを実施する上で大切なのは、細かいところにとらわれることなく、広い視野で様々なことに取り組んでいくことだと思います。また、健常者と障がい者との分けをすることなく、一つのスポーツとして多世代の方々に楽しんでもらう意識も必要となります。

### 5 シニア対象イベントでもボッチャ体験会を企画

今後も、クラブのシニア向けイベント等においてもボッチャの体験会等を企画していきます。地域内外からの集客を図るとともに、障がい者スポーツへの理解を深め、「リオから東京へ」のオリパラ・ムーブメントの機運を高めてまいります。

地域の住民とともに、スポーツを通じた健康づくりを推進しながら、クラブのスローガン『スポーツで心もからだも健康に』を着実に具現化させていきます。

(NPO法人 福光スポーツクラブ クラブマネジャー 林 裕一)



## クラブ プロフィール

**設立年月日** 平成14年5月19日

**所在地** 富山県南砺市福光地区

**特徴** NPO法人福光スポーツクラブは『スポーツで心もからだも健康に』をスローガンに平成14年に設立、平成17年にNPO法人化されました。南砺市福光体育館及び南砺市福光東部体育館、南砺市福光西部体育館の指定管理を受託し、その施設を活用しながら、スポーツ教室や各種イベントを開催し、地域内の各種団体と連携し、南砺市の健康づくりに寄与しています。また、南砺市の委託事業や指導者派遣事業など地域住民が気軽に参加できるような教室、企画にも積極的に協力しています。

**連絡先** 〒939-1654 富山県南砺市福光616番地  
TEL 0763-52-2831 FAX 0763-52-7782  
URL <http://www.fukumitsu-sc.com>  
E-Mail [info@fukumitsu-sc.com](mailto:info@fukumitsu-sc.com)



ボッチャ体験の様子



イベント全景



フライングディスク体験の様子



# 連載 みんなで盛り上げよう！ オリンピック・ムーブメント

## パラリンピック・ムーブメント事例紹介

### 大分県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会 (SCおおいたネットワーク) ＜大分県＞

オリンピック・ムーブメントとは、オリンピックの精神(オリンピズム)に従って、スポーツを通じて平和でよりよい世界の実現を目指す活動のことです。2020年に向けて国内でもさまざまな活動が行われています。

今回は、SCおおいたネットワークが実施しているパラリンピック・ムーブメント関連の取り組みを紹介します。

#### 「総合型地域スポーツクラブ交流会」の取り組み

|             |  |
|-------------|--|
| <b>実施日時</b> | 平成29年11月23日(木) 9:30～15:30  |
| <b>実施会場</b> | 大分県立総合体育館及び運動公園  |
| <b>参加者数</b> | 総数1,300名(参加障がい者約70名)<br>車いすバスケ＝約20名<br>車いすテニス＝約20名<br>車いすロード＝約10名<br>卓球バレー＝約20名  |
| <b>主催</b>   | SCおおいたネットワーク   |
| <b>主管</b>   | 総合型クラブ交流会実行委員会   |
| <b>共催</b>   | 大分県教育委員会、大分県障がい者体育協会   |
| <b>後援</b>   | (公財)大分県体育協会、NHK大分放送局、OBS大分放送、TOSテレビ大分、OAB大分朝日放送、大分合同新聞、FM大分、大分ケーブルテレコム   |
| <b>協力</b>   | (公社)日本エアロビック連盟、大分県ラグビーフットボール協会、大分県スポーツチャンバラ協会、大分県卓球バレー協会、大分県山岳連盟、大分県障害者スポーツ指導者協議会、大分市食生活改善推進協議会、国立大学法人大分大学、日本文理大学、大分県立看護科学大学 |



## 1 企画経緯

大分県は、障がい者スポーツに関し車いすマラソンなど先進的な取り組みをしてきましたが、総合型地域スポーツクラブに障がい者スポーツを導入もしくは導入を積極的に推進している状況があまり見られない現状にあります。また、2020東京オリンピック・パラリンピックが開催されることが決まって以降、その機運の高まりや、その後のレガシーへの取り組みがあまり見られませんでした。

SCおおいたネットワークでは、これまで交流会やユニバーサルスポーツである卓球バレーの指導者講習会などを実施し、障がい者も含めたスポーツをキーワードとした交流の促進を図ってきました。これを契機に、本年度、NHK大分放送局をはじめとする多くの団体等の協力を得て、車いすバスケットボールや車いすテニス、車いすマラソンロードレーサーなど障がい者スポーツの体験や卓球バレーの交流など、障がいのある人もない人も共に参加できる交流会を実施しました。

## 2 企画内容

### ◆ 2006年から毎年開催 今回からパラ3種目実施

スポーツクラブ交流会は2006年1月に初めて開催され、近年では毎年11月23日に実施し、今回で13回目の開催となりました。パラ種目については毎回1種目程度でしたが、2020年を見据え今回から3種目(車いすマラソン、車いすバスケットボール、卓球バレー)に増やしました。

運営形態については、大分県障がい者体育協会、大分県障害福祉課を通じ各団体に具体的な指導を行っていただき、種目ごとにSCおおいたネットワーク交流会実行委員(県内各クラブ選出)のスタッフを配置し、種目運営および安全管理を行う態勢をとりました。

### ◆ 後援・協力各団体と緊密に連携

開催前には、県教育委員会、障害福祉課、健康づくり支援課、県体育協会、OBS大分放送、NHK大分放送局と連携会議を行い、全体運営についてはSCおおいたネットワークとして各部署でサポートできる内容について協議し開催しました。当日は、大分大学、文理大学、県立看護科学大学にも協力をお願いしました。連絡等については、SCおおいたネットワークが行いました。

パラ種目の運営にあたっては、やはり安全管理に注意を払いました。SCおおいたネットワークの実行委員と大学生合わせて約80名のスタッフを配置し、運営と安全管理を徹底しました。



### ◆ 大学生、県内各クラブからの人員派遣で実行委員会を形成

今回も大学生や県内各クラブからの実行委員の協力により、事故もなく終了することができました。運営にあたっては、救護員を配置し、ボルダリングやラグビー、スポーツチャンバラは各協会から指導者を招聘し、実行委員は安全管理を主に担う態勢をとりました。

この企画により、各クラブ実行委員と各協会の指導者が連携して行うことから交流が生まれ、それぞれのクラブでの教室展開を促すなどの相乗効果が生まれていると考えます。また、進行マニュアルなどを各クラブに事前にメールすることで同様のイベントの参考となると考えています。さらに、交流会ではクラブ活動紹介パネルコンテストを実施し、クラブの紹介をするとともにクラブの広報力向上の一助となるよう工夫しています。

### ◆ クラブ対抗玉入れ大会で交流促進

交流会の最後には、クラブ対抗玉入れ大会を実施し、フリー・シニア・レディース・ジュニアの 카테고리で行い、クラブ内での交流・協力を促すことにも貢献しています。さらには、県内各プロチーム(サッカー、フットサル、バレー)からグッズを、関係企業からドリンクなどを提供していただき抽選会を実施しています。本年度から同時に大分県の掲げる健康寿命日本一につながる健康診断や食生活への助言などを参加者が受けられるようにしました。

障がいのある人もない人も交流会に参加すれば、食や健康状況、スポーツ体験など健康に関することを数多く体験できるイベントになりました。

## 3 参加者・運営側の声

### 参加者の声(実施後)

- 障がい者だけでなく、みんなで楽しめるスポーツが体験できました。
- 車いすバスケの難しさがわかりました。
- 車いすマラソンのロードレーサーがあんなに速いと思いませんでした。
- 色々な人と交流できて良かった。

### 運営者の声(実施後)

- 障がい者の方の安全管理が大変だと思っていましたが、皆さん自分でできるので安心しました。
- 交流がうまくできるか心配しましたが、卓球バレーなど楽しく交流ができていました。



障がいのある方のスポーツ環境を考えると、支援学校等で障がい者スポーツやユニバーサルスポーツを部活等で行っても、卒業後はそれを続ける場所や機会がないことや、グループを作るにしても、人数が集まらないもしくは集まれないといった課題があるのではないかと感じています。また、大会やイベントを実施したくても審判をしてくれる人、運営に関わってくれる人がいないのが現状です。そのような人材の面での課題の解決や地域において障がい者スポーツを発展・普及させるためには、まさに総合型クラブの基本である「どこでも、だれでも」が求められているように思います。

今後は、この交流会がパラ種目も含めスポーツを楽しんでいただける「キッカケ」、さらには障がい者も含め、県民の皆様のスポーツをキーワードとした交流の場になればと考えています。同時に健康チェックや健康に関する食の部分も学びや体験ができるようにしたいと考えています。

この交流会をさらなる交流の場とすることも大事ですが、今回のイベントをきっかけにクラブごとの新たな交流の場づくりや地域の活性化につながることも目を向けていきます。また、卓球バレーなどのユニバーサルスポーツの大会を実施し、国際大会に発展させることができればと思っています。「2020東京」をキーワードとして、障がいのある人もない人も共に地域で活動できる場面を作っていくことが大切であると考えています。SCおおいたネットワークとしては、県内各総合型クラブがこうした活動に取り組めるようサポート(環境づくり)をしていきます。

(SCおおいたネットワーク 会長 丸山 順道)



## 連絡協議会プロフィール

**設立年月日** 平成21年6月

**特 徴** 県内各クラブの主体性に基づきクラブ間のネットワーク化を図り、魅力あるクラブづくりを促進するとともに、多くの地域住民がクラブライフを通して「健康・生きがいづくり、地域づくりに寄与する」ことを目的としています。

**事務局** NPO法人MAKK笑人クラブ  
〒872-1614 大分県国東市国見町岐部536（国見ふるさと展示館内）

**連絡先** TEL 0978-75-4027  
FAX 0978-83-0321  
E-Mail [makk2014@yahoo.co.jp](mailto:makk2014@yahoo.co.jp)





## 助成金情報

### ノエビアグリーン財団 助成事業

**[実施団体]** (公財)ノエビアグリーン財団

日本を代表するジュニアスポーツ選手の育成、また、心身ともに健全な青少年の育成に寄与することを目的として、一般公募による助成活動を実施しています。

**[申込期間]** 平成29年12月1日(金)～平成30年2月28日(水)

団体と個人で応募できます。以下のページよりそれぞれの申請書をダウンロードして記入し、必要な提出書類とともに、郵送してください。(当日消印有効)

<http://www.noevirgreen.or.jp/grants/index.htm>

### ヨネックススポーツ振興財団 平成30年度助成金

**[実施団体]** (公財)ヨネックススポーツ振興財団

青少年スポーツの振興に関する事業を積極的に行い、奨励し、または自ら行い、かつ3年以上継続して活動している、必要な条件を満たした団体を対象とします。

**[申込期間]**

後期:平成30年6月20日(当日消印有効) ※例年より期限が変更になっています。

応募用紙をダウンロードし、必要事項を記入した上、対象団体であることを証明する書類を添付して郵送してください。

<http://www.yonexsports-f.or.jp/joseikin.html>





## お知らせ

### 日本体育協会情報

平成30年4月1日から、本会の名称が「日本スポーツ協会」に変わります。

<変更前>

公益財団法人日本体育協会(英文表記:Japan Sports Association)

<変更後>

公益財団法人日本スポーツ協会(英文表記:Japan Sport Association)

詳細については、こちらから

<http://www.japan-sports.or.jp/index/news/tabid/92/Default.aspx?itemid=3551>

### イベント情報

#### ●日本体育協会関連事業

#### ブロック別クラブネットワークアクション2017開催報告

#### 【公益財団法人日本体育協会 総合型地域スポーツクラブ全国協議会 主催】

総合型地域スポーツクラブ関係者が抱える課題解決の糸口を探るための情報の共有化や、クラブ育成支援のためのネットワークの強化を図ることなどを目的として全国9ブロックでクラブネットワークアクションを開催しました。

各ブロック開催報告については以下のURLを参照ください。

<http://www.japan-sports.or.jp/local/tabid/508/Default.aspx>

#### 第45回日独スポーツ少年団同時交流 団員・指導者募集要項

本事業は、日独両国のスポーツ少年団の優れた青少年および指導者の相互交流により友好と親善を深め、国際的な能力を高めると共に両国の青少年スポーツの発展に寄与することを目的に昭和49(1974)年から継続して実施しており、これまで両国あわせて1万人以上もの青少年の交流を行ってきています。

募集要項についてはこちら

<http://www.japan-sports.or.jp/club/news/tabid/83/Default.aspx?itemid=3664>

お申し込みされる場合は、所属の市区町村スポーツ少年団、都道府県スポーツ少年団からの推薦が必要になります。

応募の詳細につきましては所属の市区町村スポーツ少年団へお問い合わせください。

今年度の交流様子はこちら

<http://www.japan-sports.or.jp/photoalbum/tabid/1117/Default.aspx>



## スポーツボランティアサミット2017

### 『誰もがスポーツを楽しむ共生社会に向けて～障害者スポーツのボランティア～』

2019ラグビーワールドカップ、そして夏に2020東京オリンピック・パラリンピックのボランティア募集が2018年の春に開始される予定です。スポーツを取り巻く国内の環境が刻々と変化中、スポーツボランティア活動への社会的認知も確実に高まっています。

今回のサミットでは「誰もがスポーツを楽しむ共生社会に向けて」をテーマにしながら、今後の日本におけるスポーツボランティア活動のあり方について考えます。

多くの皆様のご参加をお待ちしております。

|     |                          |
|-----|--------------------------|
| 主催  | NPO法人日本スポーツボランティアネットワーク  |
| 日時  | 2018年1月27日(土)13:30～16:30 |
| 会場  | 日本財団ビル(東京都港区赤坂1-2-2)     |
| 参加費 | 1,000円(税込) ※当日支払         |
| 定員  | 200名                     |

参加申し込み等詳細については、以下のURLを参照ください。

[https://spovol.net/img/seminar\\_image/leaflets\\_pdf/114.pdf](https://spovol.net/img/seminar_image/leaflets_pdf/114.pdf)

スポーツボランティアについて学びたい方は、以下のURLからお住まいの地域で開催されるセミナー等を探すことができます！

<https://spovol.net/events?category=4>

スポーツボランティアの資格を取得したい方は、以下URLからお住まいの地域で開催される講習会等を探すことができます！

<https://spovol.net/events?category=2>

## 日本体育協会公認スポーツ指導者資格情報

### 2018年4月1日付公認スポーツ指導者資格登録手続きのお知らせ

2018年4月1日付公認スポーツ指導者資格登録手続きを実施します。

資格の取得および資格継続のために必要な手続きになりますので、該当する方は2018年3月31日(土)までにお手続きいただきますようお願いいたします。

更新手続きのご案内は、更新に必要な義務研修を修了された方へ、1月下旬からご登録住所宛に更新手続きのご案内をお送りします。